

人工知能

赤谷慶子

人口知能(AI)多種開発進み、言葉の意味をパソコンにて検索すれば始めにいでくるはAIによる概要なり。短く分かりやすき説明文出で來たる。されど、これ正確なりや否や疑心暗鬼になる。先月耳石による良性発作性頭位めまひ症なる病を発症せり。それを英語にて探すと五件ほどAIによる病名と症状の分かりやすき説明文出で來たり。病と症状は医療関係の電網に確認したれば、偽情報ならぬ事は判明せり。

多様な仮想助手、例へばアップル社開発のSiriは携帯電話およびアイパッドにしたらへられたり。携帯電話にて花の写真撮りてその名を知らむと、検索すれば忽ちに回答現る。翻訳、録音、文字起し等あらゆる作業可能になりて、その進化過程の素早き事、驚くべし、

自動車も同じくメルセデス・ベントンはMBUX対話型システムをしたらへたり。愛車はまづ運転席に坐りて携帯電話をBluetoothと繋がる「位置」に置く。車は我携帯電話認知し、車誘導等に使ふ「画面」運転手の顔認証す。「おはようございます、赤谷慶子さん」と声いで初めてエンジンかけらる。運転手異なれば画面に暗証番号入力する様指示せられ、暗証番号を入れずばエンジンもかからず。

1

車はほぼ人造人(ロボット)にて、先月ゴルフの帰路アクアライン渋滞しノロノロ舵を取るほどに、睡魔に襲はれたらむか、舵取り突然大きく震へ、我に返りき。顔認証画面に目をつむりしを、車感知し危ふき信号を受けたるならむ。渋滞の場合車間距離狭まると、車は自動制動かかるべく事は知りたれど、舵取りのわななくは知らねば、正直驚きたり。

運転手操舵を誤らむともAIの修正す。豈恐るべしと言はざるべけむや。

(令和七年五月三十一日受附)